

平成 20年 1月 28日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2073400521		
法人名	社会福祉法人 豊智福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー		
所在地	長野県長野市豊野町豊野2298-2 (電話) 026-257-5183		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年1月11日	評価確定日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(19年 11月 7日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤8人	非常勤6人 常勤換算13.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(30日)33,600 円	その他の経費(月額)	1日 540 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (11月 7日 現在)

利用者人数	18 名	男性 名	女性 18 名
要介護1	4名	要介護2	5名
要介護3	5名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝日HP、上松HP、長野市民HP、中屋診療所、豊野HP、斉藤歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中核市である長野市と合併し、市の北部に位置する豊野町の高台にあり、下に走る国道18号線は「アップライン」と称されている程リングで有名な地区である。長野の町と隣の須坂市の夜景・花火も見え、温泉も近くにあり楽しみが豊富である。敷地内には同法人が平成2年に開所した特別養護老人ホームがあり、常駐の看護師が兼任しているため、状態変化時にはいつでも駆けつけ、医師への連携もスムーズに行え安心である。2ユニットは平屋で独立した建物で、それぞれが広々しており、車いすの利用者にも快適で非常災害時にも十分対応できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では「理念の分かりやすく揭示」と、「地域との交流」が求められたが、理念を大きな文字で見やすく改善し、玄関に掲げられていた。また、地域との積極的な関わりについても、運営推進会議でのホームの説明により、以前より一層地区の行事への参加しやすくなった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員には、アンケート方式で自己評価に代わるもので行われており、職員の意識も高く、積極的に評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者と殆どの家族も参加し、地域の方・市の関係者など大勢の参加により3ヶ月に1回定期的に開かれている。法人の特養の敷地内にホームがあることから、グループホームの理解不足もあったが、運営推進会議を開くことでホームの説明が出来、理解して頂く良い機会となり、地区の行事にも頻りに声を掛けて頂き、参加しやすくなった。非常災害時でも地区の協力が得られることが確信できた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が面会簿によると、1ヶ月延べ50人を数えることもある程頻繁であり、面会時には日頃の様子を知らせたり、毎月ホーム便りも発行し、家族に郵送している。障害のある方の受け入れも、コミュニケーションの取り方は、家族に教えて頂きながら、不安解消への対応がしっかり行われていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の中学生在が朗読ボランティアとして来たり、近所のお年寄りが野菜を持ってお茶を飲みに来てくれたり、地区の行事に参加するなど、地域との交流も年々盛んになっている。また、地震想定訓練に於いても、地元の消防団、地域住民が多数参加して頂いたことにより、職員及び利用者にとって緊急時に地域との連携が取れることは何よりも安心である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、「利用者が地域社会の一員として、地域への参加、交流等を積極的に行う環境づくり」を理念の中に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	前回の調査後理念を大きな文字で書き直し、玄関に掲げ月1回の職員全員によるケア会議で確認し、自立した生活の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事に声を掛けて頂いている。中学生の朗読ボランティアや焼き芋大会には保育園児が20名来所するなど、地元との交流は盛んにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は、全体会議で検討し、改善に活かしている。年に1回職員全員から自己評価としてアンケートをとり、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者全員と殆どの家族も参加し、地区役員、市の関係者により3ヶ月に1回定期的に開かれており、グループホームの理解をして頂くと共に、地域の行事の参加の声掛けもして頂けるようになった。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からあんしん相談員が月に1回訪問し、市との連携を図っている。また、市に出向き相談するなど常にサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ホーム便りを郵送して暮らしぶりを知らせている。1ヶ月に延べ50人を数える面会簿の記録があり、頻繁である面会時に状態を報告している。面会時にお預かりしている金銭の報告もし、確認印を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に殆どの家族にも参加して頂いている。家族会も年2回開き意見を聞いている。また、無記名でアンケートを年1回実施するなど、意見を聞く機会を多く持ち、意見の反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動が多少あるが、法人の施設と隣同士であり、何らかのサービスを利用していた方のため、職員とも顔なじみになっており、あまりトラブルはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのレベルに応じて、外部研修年1～2回、内部研修も年に1～2回参加し、ケア会議で報告するなど、共有を図りレベルの向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回他のホームと1週間一人ずつ職員が交代し、情報交換するなど質の向上に取り組んでいる。長野圏域でのリーダー会を2ヶ月に1回開き情報交換もしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅に訪問したり、見学の受け入れもし、家での生活が継続出来るよう家族と相談しながら支援をしている。面会した職員が受け入れをし馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、色々な経験から教えて頂くことも多く、お互いに協働しながら支え合う関係づくりを築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々一人ひとりに希望を聴きながら、買い物や散歩、外出など応じている。意思疎通が困難な方については、家族から情報を頂きながら、希望にあった対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの希望を聴きながら、担当職員を中心に毎月のケア会議で検討をし、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、6ヶ月を目安に見直している。毎月の職員全員によるケア会議で、状態の変化により家族と相談しながら随時見直しもされている。	○	状態の変化が無くても、身体機能低下防止の為に、3ヶ月を目安に介護計画の検討をされることが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の特養の看護師がホームも兼務しており、いつでも相談出来る体制である。状態の変化に応じて家族と相談し、特養での対応も検討するなど柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医の往診があり、いつでも相談できる体制である。急変時には医師に連絡の上通院し、入院時には家族と共に付き添う。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、本人・家族の希望を尊重しながら、医療機関と連携を取り家族と話し合いを繰り返し、支援している。	○	年齢的に機能低下及び、急変が考えられる利用者であるため、ホームでの対応の力量を踏まえつつ、利用者・家族が納得した最期を迎えられるようターミナルケア指針を作成されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの特徴を把握し、プライバシーに配慮した対応が伺えた。職員全員によるケア会議の折りにも、プライバシーを損ねない対応を確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、利用者と相談して一応決まってはいるが、それにとらわれず一人ひとりに希望を聴きながら、柔軟に対応している。		

グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量に応じて、食事の用意や片付けなど職員と一緒にしている。利用者が全員女性であり楽しそうに、賑やかに弾んだ会話の中で食事の用意をされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回であるが、2ユニットで、曜日を変えて一日おきの入浴を行っており、続いての入浴を希望する場合には、隣のユニットでの入浴が可能で、希望に応じて柔軟な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り・縫い物・広告で箱折りなど、経験を活かし力量を発揮し、楽しく過ごせるよう支援している。	○	職員の交代があっても、利用者の情報把握の為に、一人ひとりの生活歴など見やすいように整理することが望ましい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは見晴らしの良い高台で、散歩コースもそれぞれの方向に3コースあり、その日の体調などにより利用者の希望のコースに散歩に出かけている。地域の催しに出向いたり、2ヶ月に1回はドライブも含め、外出をしている。希望により選挙への外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜以外はいつでも自由に訪問できるように鍵は掛けていない。徘徊された時もあるが立地的にホームの庭から道がよく見え、発見も早く、本人の希望を聴きながら散歩してホームに帰宅するなどの対応を行っている。		

グループホーム泉平ファミリー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の防災管理研修を受講した防災管理者が各ユニットに一名ずつおり、全体のケア会議等で日頃の防災対策について周知共有を図っている。地震想定訓練にも、消防署・地区消防団5～6名・地域住民10名の参加があり、地域の協力は得られている。	○	地域の協力は得られる関係づくりは出来ているが、夜勤の一人体制を考慮し、車いす利用や機能低下が激しい利用者に合わせた避難のマニュアルを作成されることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を一覧表にまとめ、職員で情報の共有をしている。計画作成担当者が栄養士でもあり、栄養バランスについても管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には開所以来飼っている金魚がいたり、リビング横の和室には神棚・床の間があり、炬燵も用意されており一般家庭の雰囲気がかもし出され、居心地の良さが感じられた。廊下の飾り物も毎月季節が感じられるイメージ造りがされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのテレビ・筆筒・椅子・観葉植物など、自由に持ち込まれ思い思いに居室造りがされていた。また、リハビリ用の平行棒で、職員の見守りによりお部屋でリハビリをされる方もいるなど、居心地よく過ごせる工夫が伺えた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。